

## 森をみて林をみて木をみる

利益を大きく上げている投資家に共通していえることは、相場の流れをつかむことが上手だということだ。昔から、相場は「森をみて林をみて木をみる」といわれている。多くの投資家は「森」である日本株全体はみているが、その後すぐに「木」に目がいってしまう。個別銘柄を追ってしまうのだ。利益を上げている投資家は違う。「森」をみたあとに「林」をしっかりとらえているのである。

日本株で投資をおこなおうとしたとき、まずみるのが日本株全体の流れ、つまり「森」(大勢)である。大きな流れは上昇基調にあるのか、下落基調にあるのかをTOPIXや日経平均株価等の指標の罫線図を観察することで判断する。中長期の投資スタンスで相場をみている投資家ならば、清光経済研究所の「柴田罫線」株式週報の冒頭ページをじっくり読めば、わかりやすく解説してある。ネットメンバーサービス「柴田秋豊の罫線」ならば、日経平均株価、TOPIXを含む6指標について最新の転換状況がいつでも確認できる。棒足法則を加味した解説は心強い限りだ。

次に注目する「林」とは何をさすのだろうか。大きい流れが上昇しているならば、その流れの中心にある銘柄群のことである。上昇中の銘柄群、下落中の銘柄群、株価が変動しない銘柄群・・・と相場はさまざまに分類ができる。これらの分類をうまくできる投資家は投資上手といえる。柴田秋豊先生は日本ではじめて業種別の指標を

## 学ぶ ポイント

「テーマ」のとりえ方：「柴田罫線」をはじめたころは——  
 「テーマ」のヒントはあらゆるところにある。例えば新聞紙上では、その日の買いのテーマ、売りのテーマが記載されている。実際に罫線図を確認して、今後自分で注目していく「テーマ」を絞る。それを継続的に観測することも「テーマ」をとらえる一つの方法だ。

新聞紙上に「テーマ」のヒントはいくらでも書かれている。これらの銘柄群を実際に罫線図で確認することで、「林」を自分でみつつけることができる。

日本経済新聞 2003年(平成15年)1月

**株式往来**  
 経平均株価が続落、一時八五〇〇円を下回った。持ち合い解消や、上値の重さを嫌気した売りに押された。富士通が一九七八年十一月以来約二十四年ぶりの安値水準に沈んだほか大手銀行株の下値が目立ち、さえない相場を象徴した。「米国は年明け早々、大型減税案を率の引き上げ議論が始まった」と、彼我の政策対応の差を嘆く声もあふちで聞かれた。

**富士通は24年ぶり安値**  
 東証では日経平均株価が続落、一時八五〇〇円を下回った。持ち合い解消や、上値の重さを嫌気した売りに押された。富士通が一九七八年十一月以来約二十四年ぶりの安値水準に沈んだほか大手銀行株の下値が目立ち、さえない相場を象徴した。「米国は年明け早々、大型減税案を率の引き上げ議論が始まった」と、彼我の政策対応の差を嘆く声もあふちで聞かれた。

**個別銘柄だけにとらわれない。この銘柄を中心とした「テーマ」をとらえる。**

**持ち合い解消で続落**  
 上場来安値を更新。みずほHDは一時、五千四百円を割り込んだ。この銘柄を中心とした「テーマ」をとらえる。

**これも立派な売りの「テーマ」**

**イラク攻撃で売りの銘柄群、買いの銘柄群がある。それぞれが「林」となる。**

**潜在的な売り要因**  
 ○今年には需給悪化要因に事欠かない。持ち合い解消などほぼ確実視される売り要因に加え、潜在的な需給悪化が取りざたされている。三兆円超の転換仕度が今年償還される予定で「資金不足の企業が転換社債型新株予約権付社債を発行する可

**買った大手銀行株**  
 下落の背景として、持ち合い解消に加え、潜在的な需給悪化が取りざたされている。三兆円超の転換仕度が今年償還される予定で「資金不足の企業が転換社債型新株予約権付社債を発行する可

**買いの「テーマ」**  
 郵船が3日続伸  
 郵船が3日続伸  
 郵船が3日続伸

**7日ぶりに反落**  
 日経平均株価は7日ぶりに反落  
 日経平均株価は7日ぶりに反落

**買いの「テーマ」**  
 買いの「テーマ」  
 買いの「テーマ」

「テーマ」のとりえ方：「柴田罫線」を使いこなせばはじめたら——  
 上昇中、下落中の罫線図をソフトウェアやネットメンバーで検索し、同じような罫線型の(例えば、同じように段を描くような)銘柄群をひとつくりにする。多くの罫線図を毎日観測するのがポイント。

